

ふりがな

ただ おさむ

氏名

多田 治

1. 学歴

- 1994年3月 早稲田大学政治経済学部政治学科卒業
- 1994年4月 早稲田大学大学院文学研究科社会学専攻修士課程入学
- 1996年3月 早稲田大学大学院文学研究科社会学専攻修士課程修了
- 1996年4月 早稲田大学大学院文学研究科社会学専攻博士後期課程入学
- 2000年3月 早稲田大学大学院文学研究科社会学専攻博士後期課程満期退学
- 2003年2月 早稲田大学大学院文学研究科にて博士学位取得

2. 職歴・研究歴

- 1999年4月 早稲田大学第二文学部 助手（～2000年3月）
- 2000年4月 琉球大学法文学部 講師（～2003年3月）
- 2003年4月 琉球大学法文学部 助教授（～2006年3月）
- 2006年4月 一橋大学大学院社会学研究科 助教授
- 2007年4月 一橋大学大学院社会学研究科 准教授に名称変更
- 2013年4月 一橋大学大学院社会学研究科 教授
- 2013年8月 ハワイ大学日本研究センター 客員研究員（～2014年8月）

3. 学内教育活動

(A) 主な担当講義名

(a) 学部学生向け

社会学概論、社会学理論

(b) 大学院

グローバル化と移動社会／社会学、グローバル・メディア論

(B) ゼミナール

学部後期、大学院

4. 主な研究テーマ

これまで私は沖縄を主な対象として、1970年代の日本復帰・海洋博以降の観光立県と「青い海」「亜熱帯」等の沖縄イメージの形成や、戦前期からの沖縄観光・イメージの通史などを研究してきた（成果は『沖縄イメージの誕生』『沖縄に立ちすくむ』『沖縄イメージを旅する』等）。

その後、沖縄の観光を理解するにも沖縄単体より、ハワイや宮崎からの流れも見たほうがよいと気づく。海外と国内、両方の流れや関係性の中に沖縄を位置づけ、各地の相互影響や並列化のプロセスを立体的に把握した。ハワイではハワイ大学研究員として1年間滞在し、現地で行える資料収集やフィールドワークに注力し、島ごとの観光開発やイメージ形成の多様な歴史を把握した。その成果を日米の研究者数人からなる“Paradise Project”の一環として、アメリカの学会で2回英語で報告した後、英語で査読論文を書き、1960-70年代の新婚旅行ブーム以降の宮崎・

ハワイ・沖縄の関係について詳述した(“Constructing Okinawa as Japan’s Hawai’i: From Honeymoon Boom to Resort Paradise”, *Japanese Studies*, 35-3, 2015)。

ハワイ滞在からは、他地域の研究にも重要なヒントを得た。例えばハワイの観光地化の前には、アジア移民をプランテーション労働に導入するプロセスがあり、背景にはハワイ先住民の激減があった。これを日本に応用すれば、ハワイは沖縄より北海道と類似する点が多い。北海道も明治からの近代化で、開拓～開発の流れをたどるなか、観光も伸びてゆく。こうした北海道の開発と観光の関係が、復帰後の沖縄にもモデルとして応用されたことも新たに認識した。

そこから私は、観光の長期の歴史をよりトータルに把握する必要を自覚し、国立公園の歴史や、戦前の植民地観光から戦後の北海道観光への流れに重要性を見出した。北海道の観光史を検証し、沖縄研究の知見と接続・比較を行い、学会・論文で報告した(「観光開発の比較史—ハワイ・沖縄・北海道の接続」成城大学『グローバル研究』6号、2019)。エリア横断的な考察で、観光を切り口に社会をとらえる視点と手法を練り上げた。

以上をふまえ今度は、こうした観光開発やイメージ形成をより大きな文脈から理解するため、理論的・歴史的なパースペクティブを掘り下げる作業に着手した。観光現象を、象徴・奢侈・消費・移動・越境などのグローバルで歴史的な文脈に位置づける視点を形成・蓄積した。具体的にはゾンバルトの奢侈・消費論、ウォーラーsteinの世界システム論、エリアスの文明化・宮廷社会論、ブルデューの象徴資本論・国家論などである。これらの理論的・歴史的知見を本にまとめる作業を行い、大学院生との共著『社会学理論のプラクティス』を刊行した(くんぷる、2017年)。

『社会学理論のプラクティス』で扱う歴史の事例は主にヨーロッパだったので、刊行後はその知見を日本に適用し、近世の安土桃山～江戸時代に国家的な枠組みが形成された経緯や、武士の参勤交代や庶民の伊勢まいりによって日本の広域を移動する旅・観光の文化がこの時期に確立し、旅・移動が国家形成に重要な役割を果たしたことを、深く把握した。江戸における首都機能の集中や消費社会の進展(ゾンバルトの知見と合致)、全国レベルの産業・文化のネットワーク形成などを明らかにし、長期の歴史に旅・観光を位置づけ、その重要性を確かめてきた。明治期の鉄道事業にも注目し、徒歩による街道の旅から鉄道旅行へ移行した近世～近代の変化と連続性への認識も深めている(「江戸時代の旅・移動—街道整備でひらかれた利便性と視覚的風景—」『社会学理論のプラクティス』第2部歴史篇の日本への適用・導入編—社会的近世・江戸時代論の可能性と重要性—)。

本研究は社会学の立場から旅・観光を、広い意味での「知識を形成・吸収・伝達・表現する営み」の一環としてとらえる。今日の「インスタ映え」の旅はまさにそうした様相を表しているが、古く近世まで時代をさかのぼっても、旅は元来そうした知識形成の性質をおびていた。社会をとらえる知識は、社会の現実を維持しながら組みかえ、構築してゆく能動性もそなえている(ギデンズ)。観光の知もまさに、各地の風景・場所・経済・文化等を形成してきたことが歴史から明らかである。ドラッカーの知識社会論やブルデューの象徴資本などの知見も生かして、知識論の視座から観光の歴史を扱うことで、観光研究の新たな地平を拓いていきたい。

5. 研究活動

A. 業績

(a) 著書・編著

- ・李榮眞 訳『오키나와 이미지의 탄생 푸른 바다의 문화연구 (『沖縄イメージの誕生——青い海のカルチュラル・スタディーズ』韓国版)』(訳書), 패러다임북, 2020.7
- ・花田昌宣他編『いま何が問われているか 水俣病の歴史と現在』(共著), くんぷる, 2017.12
- ・多田治編『社会学理論のプラクティス』(編著), くんぷる, 2017.10.25
- ・「水俣」を子どもたちに伝えるネットワーク・多田治・池田理知子編『いま、「水俣」を伝える意味 原田正純講演録』(共著), くんぷる, 2015.9.30

- ・『社会学理論のエッセンス（早稲田社会学ブックレット 社会学のポテンシャル7）』, 学文社, 2011.11.30
- ・『沖縄イメージを旅する——柳田國男から移住ブームまで』, 中公新書ラクレ, 2008.8.10
- ・『沖縄イメージの誕生——青い海のカルチュラル・スタディーズ』, 東洋経済新報社, 2004.10.6
- ・岩淵功一・多田治・田仲康博編『沖縄に立ちすくむ——大学を越えて深化する知』（共編著）, せりか書房, 2004.3.25

(b) 論文

- ・「都市開発と観光開発の歴史からみたメガイベント—大阪万博と沖縄海洋博を中心に—」『社会学年誌』 通巻 61 号, p.23-38, 早稲田社会学会, 2020.3
- ・「ドラッカーと社会学的思考の新結合—井坂康志著『P・F・ドラッカー』からの展開—」『ドラッカー学会年報 文明とマネジメント』 通巻 16 号, p.32-44, ドラッカー学会, 2019.11
- ・「観光開発の比較史—ハワイ・沖縄・北海道の接続—」『グローバル研究』 通巻 6 号, p.123-136, 成城大学グローバル研究センター, 2019.10
- ・「方法としてのツーリスト再考—東浩紀の観光論とマキアーネル『サイトシーイングの倫理』の検討から—」多田治編『多田ゼミ同人誌・研究紀要』 通巻 10 号, p.56-70, 一橋大学社会学研究科・社会学部 多田治ゼミナール, 2017.8
- ・「国家形成と象徴戦略——エリアスとブルデューの接続 (2)」『多田ゼミ同人誌・研究紀要』 通巻 9 号, p.202-211, 一橋大学社会学研究科・社会学部 多田治ゼミナール, 2017.5
- ・「宮廷社会と象徴資本——エリアスとブルデューの接続 (1)」『多田ゼミ同人誌・研究紀要』 通巻 8 号, p.217-228, 一橋大学社会学研究科・社会学部 多田治ゼミナール, 2017.3
- ・「ウォーラーステイン『近代世界システム』全 1-4 巻のエッセンス—彼が単なる経済史家でなく社会学者でもある理由—」『多田ゼミ同人誌・研究紀要』 通巻 5 号, p.238-250, 一橋大学社会学研究科・社会学部 多田治ゼミナール, 2016.9
- ・「ゾンバルトから世界システム論へ—川北稔の仕事の検討を通して—」『多田ゼミ同人誌・研究紀要』 通巻 4 号, p.296-304, 一橋大学社会学研究科・社会学部 多田治ゼミナール, 2016.7
- ・「プロセスとしての社会—ノルベルト・エリアスの社会学・文明化・宮廷社会論—」『多田ゼミ同人誌・研究紀要』 通巻 3 号, p.203-215, 一橋大学社会学研究科・社会学部 多田治ゼミナール, 2016.5
- ・「ゾンバルト、その可能性の中心 (1)『恋愛と贅沢と資本主義』」『多田ゼミ同人誌・研究紀要』 通巻 2 号, p.135-144, 一橋大学社会学研究科・社会学部 多田治ゼミナール, 2016.3
- ・「グローバル・ヒストリーとジェントルマン資本主義・導入編—“象徴”の社会学の全面展開に向けて—」『多田ゼミ同人誌・研究紀要』 通巻 1 号, p.88-91, 一橋大学社会学研究科・社会学部 多田治ゼミナール, 2016.2
- ・“Constructing Okinawa as Japan’s Hawai’i: From Honeymoon Boom to Resort Paradise” *Japanese Studies* 35(3), p.287-302, The Japanese Studies Association of Australia, 2016.1 *
- ・“From Hawaii to Okinawa: the Expansion of the Paradise Image and Tourism beyond Time and Place” Ina Hein & Isabelle Prochaska-Meyer (ed.) *40 YEARS SINCE REVERSION: NEGOTIATING THE OKINAWAN DIFFERENCE IN JAPAN TODAY*, p.261-272, Vienna University, 2016
- ・「日本のハワイ」としての沖縄の形成—新婚旅行ブームからリゾート・パラダイスへ—『一橋社会科学』 通巻 7 号, p.91-104, 一橋大学大学院社会学研究科, 2015.7
- ・「沖縄イメージ、その発生と展開—“想像の沖縄”と、方法としてのツーリスト—」ローザ・カーロリ編『想像の沖縄：その時空間からの挑戦—第5回沖縄研究国際シンポジウム報告書—』, p.83-90, 新宿書房, 2015.6
- ・「ショッピングモールと沖縄イメージ—郊外化と観光の浸透にともなう県民の生活実感—」安藤由美・鈴木規之編『沖縄の社会構造と意識—沖縄総合社会調査による分析—』, p.99-124, 九州大学出版会, 2012.4

- ・「台湾映画と沖縄映画を照らしあう—『海角七号』と『悲情城市』、『ナビィの恋』と『ウンタマギルー』のアナロジー論」星野幸代・洪郁如・薛化元・黄英哲編『台湾映画表象の現在—可視と不可視のあいだ』,p.105-133, あるむ, 2011.8
- ・「映画のなかの沖縄イメージ——その複線的な系譜」岩崎稔・陳光興・吉見俊哉編『カルチュラル・スタディーズで読み解くアジア』, p.222-236, せりか書房, 2011.7
- ・「観光を社会的にとらえるエッセンス—沖縄イメージ研究の立場から」遠藤 英樹・堀野 正人編『観光社会学のアクチュアリティ』, p.40-59, 晃洋書房, 2010.11
- ・「沖縄と平和——軍事大国アメリカとどう向き合うか」平和と和解の研究センター／足羽與志子・濱谷正晴・吉田裕編『平和と和解の思想をたずねて』, p.89-114, 大月書店, 2010.6
- ・「八重山の観光と環境・文化・景観」多田治編『観光と環境、文化と自然の社会学～沖縄・八重山諸島のフィールドワークから～』, p.256-282, 2009.8
- ・「地域問題の現代的縮図としての〈沖縄問題〉——基地と振興の視点から」松野弘・土岐寛・徳田賢二編『現代地域問題の研究——対立的位相から協働的位相へ』, p.285-306, ミネルヴァ書房, 2009.4
- ・「観光の社会史——沖縄イメージを旅する」一橋大学社会学部編『連続市民講座 市民の社会史 戦争からソフトウェアまで』, p.219-234, 彩流社, 2008.11
- ・「観光リゾートとしての沖縄イメージの誕生：沖縄海洋博と開発の知」『一橋大学スポーツ研究』 通巻 27 号, p.61-66, 一橋大学スポーツ科学研究室, 2008.10
- ・「八重山の現在：移住ブームとミニバブルの中で」多田治編『沖縄・八重山諸島のいま～移住・観光ブームによって、島に何が起きているのか～』, p.297-312, 2008.4
- ・「9 章「ショッピングモール」、10 章「沖縄イメージ」鈴木規之・安藤由美編『沖縄の社会構造と生活世界——二次利用として公開可能なマイクロデータの構築をめざして——沖縄総合社会調査 2006』, p.102-140, 2008.3
- ・「戦前期の観光における沖縄イメージの形成—国家主義時代の観光と知—」『一橋社会科学』 通巻 3 号, p.1-53, 一橋大学大学院社会学研究科, 2007.7
- ・「質的調査法と沖縄イメージ—構築主義とアクティブ・インタビューの活用—」『琉球大学法文学部人間科学科紀要 人間科学』 通巻 16 号, p.155-179, 2005.9
- ・「沖縄海洋博から愛知万博へ：環境のテーマ化にはどんな意味があるのか？」町村敬志・吉見俊哉編『市民参加型社会とは——愛知万博計画過程と公共圏の再創造』, p.371-381, 有斐閣, 2005.7
- ・「食文化のなかの〈沖縄〉と健康・長寿のイメージ—メディア人へのインタビュー分析から—」『戦後 60 年沖縄社会の構造変動と生活世界』, p.69-90, 琉球大学法文学部人間科学科社会学専攻（平成 16 年度琉球大学教育研究重点化経費報告書）, 2005.3
- ・「夢のタイムラグ：ゆいレールと沖縄」『ユリイカ』 2004 年 6 月号, p.162-172, 青土社, 2004.6
- ・「ちゅらさんの南島論—テレビ分析・沖縄研究・社会理論—」佐藤慶幸・那須壽・大屋幸恵・菅原謙編『市民社会と批判的公共性』, p.139-159, 文真堂, 2003.8
- ・「沖縄海洋博の再検討・その内容分析（3）—ビジュアル・メディアとしての沖縄海洋博—」『琉球大学法文学部人間科学科紀要 人間科学』 通巻 11 号, p.407-448, 2003.3
- ・「沖縄イメージの誕生—沖縄海洋博と観光リゾート化のプロセス—」, 博士論文、早稲田大学大学院文学研究科に提出, 2002.10
- ・「沖縄海洋博の再検討・その内容分析（2）—観光リゾートとしての〈沖縄〉イメージの誕生—」『琉球大学法文学部人間科学科紀要 人間科学』 通巻 10 号, p.111-148, 2002.9
- ・「沖縄海洋博の再検討・その内容分析（1）—〈海〉をめぐるイメージ・ポリティックス—」『琉球大学法文学部人間科学科紀要 人間科学』 通巻 9 号, p.155-185, 2002.3
- ・「日常生活の美学化と美的再帰性—情報消費社会と自己の文化社会学のために—」『社会学年誌』 通巻 41 号,

p.65-79, 早稲田社会学会, 2000.4

- ・「浦安市の空間変容と東京ディズニーランドー〈フィギュラルなもの〉と都市開発」『早稲田大学大学院文学研究科紀要』 通巻 44 号, 51-61, 1999.4
- ・「ポスト・バブル期の〈自分らしさ〉と社会参入—大学生・短大生 305 人への『就職活動に関するアンケート』結果報告」『ソシオロジカル・ペーパーズ』 通巻 7 号, p.44-58, 早稲田大学社会学院生研究会, 1998.4
- ・「ブルデューにおける『象徴』権力の視座」『社会学年誌』 通巻 38 号, p.167-182, 早稲田社会学会, 1997.4
- ・「教育と官僚制における『合理化』をとらえなおす—ウェーバーとブルデュー」『日仏社会学会年報』 通巻 5 号, p.69-88, 日仏社会学会, 1996.11
- ・「表象代理機能とそこに隠されていること—ピエール・ブルデューの *représentation* をめぐる、関係性の社会学」, 修士論文、早稲田大学大学院文学研究科に提出, 1996.1

(d) その他

[解説]

- ・「若き旅びとの伴走者として——自分の内側から垣間見る〈世界〉」 萬代伸哉『バックパッカー体験の社会学 日本人の若者・学生を事例に』, 公人の友社, 2020.6

[書評・新刊紹介]

- ・(書評) 杉本 久未子・藤井 和佐(編)著『変貌する沖縄離島社会—八重山にみる地域「自治」』 (ナカニシヤ出版, 2012.6.29), 『沖縄タイムス』, 2012.9.29
- ・(書評) 下川裕治・仲村清司著『新書・沖縄読本』 (講談社現代新書, 2011.2.18), 『沖縄タイムス』, 2011.5.21
- ・(書評) ピエール・ブルデュー著『科学の科学—コレージュ・ド・フランス最終講義』 (藤原書店, 2010.10.20), 『週刊読書人』, 2010.12.17
- ・(書評) ピエール・ブルデュー、ロイック・J・D・ヴァカン著『リフレクシヴ・ソシオロジーへの招待—ブルデュー、社会学を語る』 (藤原書店, 2007.1.30), 『週刊読書人』 通巻 2686 号, 2007.5.4
- ・(書評) 吉見俊哉著『万博幻想—戦後政治の呪縛』 (ちくま新書, 2005.3.10), 『Social Science Japan Journal』 第 9 巻第 2 号, 2006.10
- ・(書評) 新城和博著『うっちん党宣言 時評・書評・想像の〈おきなわ〉』 (ボーダーインク, 2006.1), 『沖縄タイムス』, 2006.2.4

[辞書・辞典等の項目執筆]

- ・日本社会学会 理論応用事典刊行委員会編『社会学理論応用事典』, 丸善出版, 2017.7.31 (執筆項目: エスニシティと地域社会, 672-673 頁)
- ・吉原和男他編『日本とアジア・人の移動事典』, 丸善, 2013.11.25 (執筆項目: 美ら海とおばあ—沖縄イメージを旅する, 374-375 頁)
- ・安村克己・堀野正人・遠藤英樹・寺岡伸悟編『よくわかる観光社会学』, ミネルヴァ書房, 2011.4.1 (執筆項目: 「カルチュラル・スタディーズにおける観光」「沖縄: 海のイメージ、観光のまなざし」, 116-117、166-167 頁)
- ・日本社会学会 社会学事典刊行委員会編『社会学事典』, 丸善, 2010.6 (執筆項目: ポストコロニアル文化, 622-623 頁)
- ・渡邊欣雄・岡野宣勝・佐藤壮広・塩月亮子・宮下克也編『沖縄民俗辞典』, 吉川弘文館, 2008.6 (執筆項目: メディア、海邦国体、沖縄国際海洋博覧会、『醜い日本人』)
- ・『沖縄を深く知る事典』編集委員会編『沖縄を深く知る事典』, 日外アソシエーツ・紀伊国屋書店, 2003 (執筆項目: 海洋博の文化的インパクト)

B. 本研究科着任後の研究活動（着任 2006 年）

（a）国内外学会発表

- ・「都市開発と観光開発の歴史からみたメガイベント」, 早稲田社会学会大会シンポジウム「メガイベントは都市に何をもたらすのか」, 2019.7, 早稲田大学
- ・「楽園幻想と観光開発——ハワイ・沖縄・北海道の歴史比較から」, 成城大学グローバル研究センター主催シンポジウム「グローバルな視座から問う沖縄・アジア・太平洋」, 2018.12, 成城大学
- ・「観光の社会学 (1) 観光で社会をとらえる視点と手法の深化——北海道と沖縄への歴史的アプローチから——」, 第 88 回日本社会学会大会, 2015.9, 早稲田大学
- ・“Constructing Okinawa as Japan’s Hawai’i”, HAWAII AS JAPAN’S PARADISE: CONSUMING IMAGES OF THE TROPICS, 2015.6, International House of Japan (国際文化会館)
- ・「宮崎観光の社会学 (3) 宮崎から沖縄へ——新婚旅行ブームと南国イメージの系譜——」, 第 87 回日本社会学会大会, 2014.11, 神戸大学
- ・“Creating Okinawa as Paradise in Japan”, Association for Asian Studies, 2014.3, フィラデルフィア・ダウンタウン・マリOTT
- ・“From Hawaii to Okinawa: The Expansion of the Paradise Image and Tourism beyond Time and Place”, American Anthropological Association, 2013.11, シカゴ・ヒルトン・「沖縄イメージの観光社会学」, 法政大学大学院 特別講義, 2013.7, 法政大学大学院政策創造研究科
- ・“From Hawaii to Okinawa: The Expansion of the Paradise Image and Tourism beyond Time and Place”, Paradise Working Group, 2013.3, ハワイ大学・“From Hawaii to Okinawa: The Expansion of the Paradise Image and Tourism beyond Time and Place”, International Okinawa Conference, “40 years since reversion: Negotiating the Okinawan difference in Japan today”, 2012.11, ウィーン大学
- ・「セッション「米軍基地が地域社会に及ぼす影響——辺野古・高江・グアム」司会・コメンテーター」, 復帰 40 年沖縄国際シンポジウム「これまでの沖縄学、これからの沖縄学」, 2012.3, 早稲田大学
- ・「3.11 以後の沖縄論——平時と軍事のグローバルな二重性——」, 第 63 回早稲田社会学会大会シンポジウム「沖縄のローカルとグローバル」, 2011.7, 早稲田大学
- ・“Touring the History of Okinawa Images: On the Duality of Military Bases and Tourism”, 特別レクチャー, 2011.1, アメリカ UC サンタバーバラ・「エスニック観光と沖縄イメージ：3つの時代の博覧会」, 国際シンポジウム「観光から見る東アジアのエスニシティと国家」, 2010.11, 金沢大学
- ・「台湾・沖縄・日本——越境の視点から」, 国際シンポジウム「東アジアの越境・ジェンダー・民衆—ドキュメンタリーと映画から見た日台関係の社会史—」, 2010.11, 一橋大学
- ・「「里海から多島海へ」コメンテーター」, 瀬戸内国際シンポジウム・犬島セッション, 2010.8
- ・「普天間基地問題と軍事大国アメリカ——「移設」というイデオロギーを超えて」, 国際シンポジウム「Cultural Typhoon 2010」, セッション「グローバル帝国の戦争・経済・メディア—イラン・フィリピン・アメリカ・日本・沖縄の時空をつなぐ—」, 2010.7, 駒澤大学
- ・“Travelling Okinawa Image: from Yanagita Kunio to the Migrant Boom”, Lecture in Japanese Cultural Creative Industries, 2010.3, イギリス, ロンドン大学パークベック・カレッジ・「セッション「観光と環境、文化と自然の社会学～沖縄・八重山諸島のフィールドワークから～」コーディネーター」, Inter-Asia Cultural Typhoon 2009, 2009.7, 東京外国語大学
- ・「文化の科学と政治性のクロスボーダー——Cultural Typhoon 2004 in 沖縄から」, Inter-Asia Cultural Typhoon 2009, 2009.7, 東京外国語大学
- ・「沖縄イメージを旅する、映画編——日本の映画は沖縄をどうまなざしてきたか」, シンポジウム「沖縄映画、

- ・ 沖縄アイデンティティ：映画—地域／歴史研究との遭遇」,2009.6, 韓国・ソウル、KOREAN FILM ARCHIVE
- ・ 「多田治著『沖縄イメージを旅する：柳田國男から移住ブームまで』合評会」, Cultural Studies Forum (CSF) & 日本観光研究学会分科会 合同研究会, 2009.1, 武蔵大学
- ・ 「八重山の現在：移住ブームとミニバブルのなかで」, カルチュラル・タイフーン 2008 in 仙台、セッション「移動・場所・イメージ～移住ブームと開発ラッシュに揺れる沖縄・八重山諸島から～」, 2008.6, せんだいメディアテーク
- ・ 「観光リゾートとしての沖縄イメージの誕生：沖縄海洋博と開発の知」, 一橋大学スポーツ科学研究会, 2008.1, 一橋大学
- ・ 「沖縄イメージとジェンダー」, 一橋大学大学院社会学研究科 先端課題研究7 「日常実践/方法としてのジェンダー」, 2008.1, 一橋大学
- ・ 「沖縄総合社会調査の概要—公開マイクロデータの構築をめざして—」, 日本社会学会第80回大会, 2007.11, 関東学院大学・「セッション「メディアにおける<ローカル>の表象」へのコメント」, カルチュラル・タイフーン 2007 in 名古屋, 2007.7, ウィルあいち
- ・ 「沖縄イメージ、その発生と展開～“想像の沖縄”と、方法としてのツーリスト～」, 第5回沖縄研究国際シンポジウム「想像の沖縄：その時空間からの挑戦」, 2006.9, イタリア・ヴェネツィア、カ・フォスカリ大学

(以下は着任前のためご参考)

- ・ 「開発—振興を問う」, 合意してないプロジェクト「合意してないシンポジウム」, 2005.12, 沖縄大学
- ・ 「沖縄イメージの誕生」, 沖縄県立芸術大学附属研究所文化講座「沖縄の大衆文化の広がり」, 2005.2, 沖縄県立芸術大学
- ・ 「京都と沖縄のイメージについて」, Kyo-Ryu Art Project「京都と沖縄のイメージを考えるシンポジウム」, 2004.9, 沖縄県立芸術大学
- ・ 「沖縄イメージ再発見のたび」, 山城知佳子個展「オキナワ TOURIST」トークセッション, 2004.9, 前島アートセンター
- ・ 「沖縄イメージの誕生—沖縄海洋博と観光リゾート化のプロセス—」, カルチュラル・タイフーン 2004 in 沖縄、セッション「万博クロニクル 1970-2005：大阪万博から沖縄海洋博、愛知万博まで」, 2004.7, 琉球大学
- ・ 「沖縄イメージの誕生—沖縄海洋博と観光リゾート化のプロセス—」, カルチュラル・スタディーズ・フォーラム, 2004.2, NHK 出版会議室
- ・ 「沖縄では、沖縄イメージはいかに消費されているのか—『ちゅらさん』『ナビィの恋』『MONGOL800』の受け手分析から—」, カルチュラル・タイフーン 2003 at 早稲田、セッション「消費される『沖縄』」, 2003.6, 早稲田大学
- ・ 「沖縄イメージの誕生—沖縄海洋博と観光リゾート化のプロセス—」, 沖縄民俗学会, 2003.5, 沖縄県立芸術大学
- ・ 「日常生活の美学化と美的再帰性——情報消費社会と自己の文化社会学のために」, 日本社会学会, 1999.10, 上智大学
- ・ 「<衝動強迫>の90年代(1) 自己をめぐる環境の変容—自己言説の雑誌分析から—」, 日本社会学会, 1998.11, 関西学院大学
- ・ 「就職活動と社会的アイデンティティ——『就職活動に関するアンケート』中間報告をまじえて」, 日本社会学会, 1997.11, 千葉大学
- ・ 「就職活動研究の視座について—高等教育の日仏比較を背景として」, 日仏社会学会, 1997.10, 奈良女子大学
- ・ 「ウェーバー—宗教社会学のブルデュー的転換の可能性——祭司・預言者・平信徒の相互作用と『場』の理論」, 日本社会学会, 1996.11, 琉球大学

- ・「集合表象はいかにして『使われる』のか」, 早稲田社会学会, 1996.7, 早稲田大学
- ・「ピエール・ブルデューにおける representation 概念」, 日仏社会学会, 1995.10, 金城学院大学

(b) 国内研究プロジェクト

[外部資金]

- ・科学研究費補助金・基盤研究 (C), 「時空を越えて広がる楽園イメージと観光開発の比較社会学: ハワイと沖縄を中心に」(研究代表者), 日本学術振興会, 2014.04.01-2019.03.31
- ・科学研究費補助金・若手研究 (A), 「観光・移住・メディアがもたらす地域イメージと文化変容に関する社会学的研究」(研究代表者), 文部科学省, 2009.4.1-2013.3.31
- ・科学研究費補助金・若手研究(B), 「沖縄・八重山諸島における地域イメージの形成・展開と社会変容」(研究代表者), 日本学術振興会, 2006.4.1-2009.3.31
- ・公益信託宇流麻学術研究助成基金, 「沖縄の長寿と観光: そのイメージと実態に関する人文社会科学的的研究」(研究代表者), 公益信託宇流麻学術研究財団, 2005.4.1-2006.3.31
- ・科学研究費補助金・基盤研究 (B), 「沖縄の社会構造と生活世界—二次利用として公開可能なマイクロデータの構築をめざして—」(研究分担者), 文部科学省, 2005.4.1-2008.3.31

[研究・調査報告書]

- ・多田治編『観光と環境、文化と自然の社会学～沖縄・八重山諸島のフィールドワークから～』(編著), 2008年度一橋大学多田治ゼミナール 沖縄・八重山調査報告書 第2巻, 2009.8
- ・多田治編『沖縄・八重山諸島のいま～移住・観光ブームによって、島に何が起きているのか～』(編著), 2007年度一橋大学社会学部多田治ゼミナール 沖縄・八重山調査報告書, 2008.4.14
- ・鈴木規之・安藤由美編『沖縄の社会構造と生活世界——二次利用として公開可能なマイクロデータの構築をめざして——沖縄総合社会調査 2006』(共著), 平成 17～19 年度文部科学省科学研究費補助金研究成果報告書, 2008.3
- ・『沖縄県民の生活・福祉・社会意識についてのアンケート調査結果概要』(共著), 文部科学省科学研究費補助金研究成果中間報告書, 2007.12
- ・多田治編『いくつもの沖縄』(編著), 琉球大学法文学部人間科学科社会学専攻社会学コース・2004 年度社会学実習報告書, 2005.9
- ・『戦後 60 年沖縄社会の構造変動と生活世界』(共著), 平成 16 年度琉球大学教育研究重点化経費報告書, 2005.3
- ・『就職活動とアイデンティティ——専門学校生 363 人への『就職活動に関するアンケート』結果報告』, 調査協力を受けた専門学校に提出, 1998.3

(c) 国際研究プロジェクト

ハワイ大学“Paradise Project”

(d) 研究会、シンポ等のオーガナイズ

- ・「沖縄イメージと風景・身体・記憶～海洋博から現在まで～」実行委員長・司会, 2006.9, 沖縄・琉球大学
- ・“Cultural Typhoon 2004 in Okinawa”, Cultural Typhoon 2004 実行委員会主催, Cultural Typhoon 2004 運営委員会共催, 琉球大学, 2004.7.9-2004.7.11, 実行委員長

6. 学内行政

(B) 学内委員会

学士課程教育専門委員 (2019.4～2021.3)

一橋社会科学編集委員長 (2018.10～2019.9)

図書委員 (2017.4～2019.3)

連続市民講座委員、専攻主任、入試幹事、入学試験実施専門委員、管理委員 など多数

(C) 課外活動顧問

一橋大学テニスサークル C.T.C. 顧問 (2021.3～)

7. 学外活動

(a) 他大学非常勤講師など

2014-16 年度 法政大学大学院政策創造研究科 非常勤講師

2006・10 年度など 琉球大学法文学部・観光科学部 非常勤講師 (集中講義)

2005 年 9 月 法政大学大学院社会学研究科 兼任講師 (集中講義)

2001 年 4 月 沖縄国際大学総合文化学部 非常勤講師 (～2006 年 3 月)

- ・「社会学・文化研究・沖縄研究とジェンダー」、一橋大学大学院社会学研究科 「社会科学のなかのジェンダー」, 2007.7, 一橋大学
- ・「沖縄イメージの誕生:カルチュラル・スタディーズと沖縄」、早稲田大学オープン教育科目 総合講座「沖縄学の構築」, 2007.6, 早稲田大学

(b) 所属学会および学術活動

日本社会学会 『社会学評論』査読委員

(c) 公開講座・市民講座

- ・「楽園幻想と開発・軍事の比較社会学—ハワイと沖縄を中心に」、一橋大学連続市民講座 2012 「戦争と暴力—社会科学からのアプローチ」, 2012.12, 一橋大学兼松講堂
- ・「沖縄イメージを旅する～基地とリゾート、二重の現実」、世田谷市民大学, 2007.9-11
- ・「観光の社会史～沖縄イメージを旅する」、一橋大学社会学部連続市民講座 2007 「市民の社会史」, 2007.7, 一橋大学兼松講堂

(d) 高校生向け出張講義・模擬講義

- ・「一橋大学社会学部を旅する、沖縄イメージを旅する」、学習院高等科特別講義, 2016.9, 学習院高等科
- ・「一橋大学社会学部を旅する、沖縄イメージを旅する」、立川高校 10 大学出張講義, 2015.10, 立川高校
- ・「社会学を旅する、沖縄イメージを旅する」、学習院高等科 特別講義, 2013.9, 学習院高等科
- ・「社会学を旅する、沖縄イメージを旅する」、土浦二高ワンデーカレッジ, 2010.11, 土浦第二高等学校

(e) その他 (公的機関・各種団体・民間企業等における講演等)

- ・「アイソレーションズ ライブ」、ドラッカー学会 第 15 回 函館大会・前夜祭, 2020.11, オンライン

- ・「荒井悠介のエッセンス」, 第 21 回 渋澤ドラッカー研究会, 2019.12, 渋谷 QWS
- ・「実践者報告・公開読書会 総括」, ドラッカー学会第 14 回大会 in 香島, 2019.11, 香島の島ホール
- ・「ドラッカーと社会学的思考の新結合」, ドラッカー学会第 14 回大会 in 香島・前夜祭「ドラッカー×社会学: 知識が社会をつくる」, 2019.11, 香島の島ホール
- ・「ドラッカーと社会学的思考の新結合」, アイソレーションズ 講演&ライブ「ドラッカー×社会学: 知識が社会をつくる」, 2019.9, 函館 カフェ・イロドリ
- ・「ドラッカーを讀んでの気づきと面白さ」, はまドラ特別ワークショップ@仙台, 2019.6, 仙都会館
- ・「井坂康志著『P・F・ドラッカー』のエッセンス・プラス~もし社会学者が井坂氏のドラッカー本を讀んだら~」, 感じる都田ツアー 拡張版アイソレーションズ 講演&ライブ, 2019.3, 静岡県浜松市・都田建設ドロフィーズ
- ・「井坂康志著『P・F・ドラッカー』のエッセンス・プラス~もし社会学者が井坂氏のドラッカー本を讀んだら~」, 社内セミナー「ドラッカー×社会学——知識が社会を創る」, 2019.3, 東京上野・日立東京シティキャンパス
- ・「井坂康志著『P・F・ドラッカー』のエッセンス~もし社会学者が井坂氏のドラッカー本を讀んだら~」, 講演&ライブ「ドラッカー×社会学: 知識が社会をつくる」, 2019.2, 長崎県立図書館
- ・「井坂康志著『P・F・ドラッカー』のエッセンス~もし社会学者が井坂氏のドラッカー本を讀んだら~」, 講演&ライブ「ドラッカー×社会学: 知識が社会をつくる」, 2019.2, 兵庫県尼崎・穀菜食堂なばな
- ・「井坂康志著『P・F・ドラッカー』のエッセンス~もし社会学者が井坂氏のドラッカー本を讀んだら~」, 第 17 回 渋澤ドラッカー研究会「ドラッカー×社会学」, 2018.12, 明治大学
- ・「社会学を旅する、沖縄イメージを旅する」, 一橋祭 2009 受験生応援企画 公開講義 社会学部, 2009.10, 一橋大学
- ・「石原都政とオリンピック招致への問い~巨大イベント・臨海開発・ネオナショナリズム~」, 第 37 回一橋祭シンポジウム「2016 年オリンピック招致を知らう~オリンピック日本開催とその効果~」, 2006.11, 一橋大学

8. 官公庁等各種審議会・委員会等における活動

国家公務員試験・試験委員

9. 一般的言論活動

- ・「ワーケーション紀行 (1) 群馬県磯部~横川・碓氷峠」『多田ゼミ同人誌・研究紀要 Vol.25』, 一橋大学大学院社会学研究科・社会学部 多田治ゼミナール, 2021.3.21
- ・「ワーケーション紀行 (2) 50 代の青春 18 きっぷで鈍行帰省: 岐阜県大垣~養老鉄道~関西本線」『多田ゼミ同人誌・研究紀要 Vol.25』, 一橋大学大学院社会学研究科・社会学部 多田治ゼミナール, 2021.3.21
- ・「ワーケーション紀行 (3) 箱根・芦ノ湖」『多田ゼミ同人誌・研究紀要 Vol.25』, 一橋大学大学院社会学研究科・社会学部 多田治ゼミナール, 2021.3.21
- ・「ワーケーション紀行 (4) 大阪の名勝地」『多田ゼミ同人誌・研究紀要 Vol.25』, 一橋大学大学院社会学研究科・社会学部 多田治ゼミナール, 2021.3.21
- ・「ワーケーション紀行 (5) 軽井沢」『多田ゼミ同人誌・研究紀要 Vol.25』, 一橋大学大学院社会学研究科・社会学部 多田治ゼミナール, 2021.3.21
- ・「国立・郊外論序説 シンボル復活、赤い三角屋根: 大学町の形成をめぐる遠大な歴史へ」『多田ゼミ同人誌・研究紀要 Vol.24』, 一橋大学大学院社会学研究科・社会学部 多田治ゼミナール, 2020.9

- ・「若き旅びとの伴走者として——自分の内側から垣間見る〈世界〉」『バックパッカー体験の社会学 日本人の若者・学生を事例に』, 公人の友社, 2020.6
- ・『多田ゼミ同人誌・研究紀要』 Vol.22・井坂康志・ドラッカー・アイソレーションズ総集編 1, 2020.1
- ・「“発見”してるで故郷大阪：万博・ニュータウン・代ゼミ跡・同窓会・四條畷」『多田ゼミ同人誌・研究紀要 Vol.21』, 一橋大学大学院社会学研究科・社会学部 多田治ゼミナール, 2019.9
- ・『多田ゼミ同人誌・研究紀要』 Vol.20・学生総集編 1, 2019.5
- ・『多田ゼミ同人誌・研究紀要』 Vol. 19・多田治総集編・著作集 2, 2019.5
- ・「感じる都田ツアー2019：静岡県浜松市・都田建設ドロフィーズ」『多田ゼミ同人誌・研究紀要 Vol.19』, 一橋大学大学院社会学研究科・社会学部 多田治ゼミナール, 2019.5
- ・「ドラッカー本読書ノート」『多田ゼミ同人誌・研究紀要 Vol.18』, 一橋大学大学院社会学研究科・社会学部 多田治ゼミナール, 2019.3
- ・「北海道：冬の札幌、夏の道東」『多田ゼミ同人誌・研究紀要 Vol.17』, 一橋大学大学院社会学研究科・社会学部 多田治ゼミナール, 2019.1
- ・「もし社会学者が井坂氏のドラッカー本を読んだら～井坂康志著『P・F・ドラッカー』書評」『多田ゼミ同人誌・研究紀要 Vol.17』, 一橋大学大学院社会学研究科・社会学部 多田治ゼミナール, 2019.1
- ・「石垣～西表～伊計島、2018 沖縄の夏」『多田ゼミ同人誌・研究紀要 Vol.16』, 一橋大学大学院社会学研究科・社会学部 多田治ゼミナール, 2018.11
- ・「『坂の上の雲』とともに、明治の時空をめぐる松山旅行」『多田ゼミ同人誌・研究紀要 Vol.16』, 一橋大学大学院社会学研究科・社会学部 多田治ゼミナール, 2018.11
- ・「城と街道：9 PLACES」『多田ゼミ同人誌・研究紀要 Vol.15』, 一橋大学大学院社会学研究科・社会学部 多田治ゼミナール, 2018.6
- ・「金沢八景アルバム～開発と歴史の相即～」『多田ゼミ同人誌・研究紀要 Vol.15』, 一橋大学大学院社会学研究科・社会学部 多田治ゼミナール, 2018.6
- ・「江戸時代の旅・移動—街道整備でひらかれた利便性と視覚的風景—」『多田ゼミ同人誌・研究紀要 Vol.15』, 一橋大学大学院社会学研究科・社会学部 多田治ゼミナール, 2018.6
- ・『多田ゼミ同人誌・研究紀要』 Vol. 14・多田治総集編・著作集 1, 2018.4
- ・「伊勢、日本のマス・ツーリズムの原点ここにあり」『多田ゼミ同人誌・研究紀要 Vol.14』, 一橋大学大学院社会学研究科・社会学部 多田治ゼミナール, 2018.4
- ・「長崎と島原半島をゆく」『多田ゼミ同人誌・研究紀要 Vol.13』, 一橋大学大学院社会学研究科・社会学部 多田治ゼミナール, 2018.3
- ・「おとなの座談会・故郷大阪の歴史を語る」『多田ゼミ同人誌・研究紀要 Vol.13』, 一橋大学大学院社会学研究科・社会学部 多田治ゼミナール, 2018.3
- ・「『社会学理論のプラクティス』第2部歴史篇の日本への適用・導入編—社会的近世・江戸時代論の可能性と重要性—」『多田ゼミ同人誌・研究紀要 Vol.12』, 一橋大学大学院社会学研究科・社会学部 多田治ゼミナール, 2018.1
- ・「同人誌版あとがき：予想外に自分の来た道を振り返る作業」『多田ゼミ同人誌・研究紀要 Vol.11』, 一橋大学大学院社会学研究科・社会学部 多田治ゼミナール, 2017.10
- ・「修士論文全文掲載シリーズ・表象代理機能とそこに隠されていること——ピエール・ブルデューの *représentation* をめぐる、関係性の社会学 (1)」『多田ゼミ同人誌・研究紀要 10』, 一橋大学大学院社会学研究科・社会学部 多田治ゼミナール, 2017.8.12
- ・「多田治の写真紀行 (6) 水俣を歩く」『多田ゼミ同人誌・研究紀要 10』, 一橋大学大学院社会学研究科・社会学部 多田治ゼミナール, 2017.8.12

- ・「多田治の写真紀行（5）長野・佐久をたずねて」『多田ゼミ同人誌・研究紀要10』, 一橋大学大学院社会学研究科・社会学部 多田治ゼミナール, 2017.8.12
- ・「多田治の写真紀行（4）数年ぶりの本部半島・海洋博公園」『多田ゼミ同人誌・研究紀要9』, 一橋大学大学院社会学研究科・社会学部 多田治ゼミナール, 2017.5.21
- ・「多田治の写真紀行（3）産業の光と影を観光する—四日市・名古屋訪問記—」『多田ゼミ同人誌・研究紀要8』, 一橋大学社会学研究科・社会学部 多田治ゼミナール, 2017.3
- ・「多田治の写真紀行（2）`特攻、を想像する—鹿児島・知覧・指宿・鹿屋への旅—」『多田ゼミ同人誌・研究紀要8』, 一橋大学社会学研究科・社会学部 多田治ゼミナール, 2017.3
- ・「多田治の写真紀行（1）タカラヅカ、象徴資本の集積地」『多田ゼミ同人誌・研究紀要8』, 一橋大学社会学研究科・社会学部 多田治ゼミナール, 2017.3
- ・「リハビリ音楽論・浜田省吾—ソロ40周年・『J.BOY』30周年によせて—」『多田ゼミ同人誌・研究紀要6』, 一橋大学社会学研究科・社会学部 多田治ゼミナール, 2016.12
- ・「10歳、初の北海道旅行1980：エースJTBロイヤル一周6日間の記憶」『多田ゼミ同人誌・研究紀要5』, 一橋大学社会学研究科・社会学部 多田治ゼミナール, 2016.9
- ・「八重山写真帖'16/富良野・美瑛・札幌写真帖」『多田ゼミ同人誌・研究紀要5』, 2016.9
- ・「舌で味わう中国揚州レポート」『多田ゼミ同人誌・研究紀要2』, 一橋大学社会学研究科・社会学部 多田治ゼミナール, 2016.3
- ・「『多田ゼミ同人誌・研究紀要』創刊の辞」『多田ゼミ同人誌・研究紀要1』, 一橋大学社会学研究科・社会学部 多田治ゼミナール, 2016.2
- ・「戦後70年 沖縄・中」『朝日新聞』, 2015.6.8 朝刊
- ・「ぶんかのミカタ ニッポンの旅50年 上・ハワイ手本に「楽園・沖縄」」『毎日新聞・大阪版』, 2014.4.17 夕刊
- ・「楽園歴125年、沖縄イメージの源流をなぞる。」『momoto モモト』, 編集工房 東洋企画, 2013.10
- ・「沖縄 基地問題への関心に中央との隔たりあり」『GALAC』, NPO 法人放送批評懇談会, 2013.3
- ・「沖縄イメージの形成と展開」『歴博』, 国立歴史民俗博物館, 2012.11.20
- ・「復帰40年 時の標（12） 沖縄イメージ・下」『沖縄タイムス』, 沖縄タイムス社, 2012.5.29
- ・「復帰40年 時の標（11） 沖縄イメージ・上」『沖縄タイムス』, 沖縄タイムス社, 2012.5.28
- ・「メディアと沖縄イメージ（2） 映画における沖縄イメージの変遷」『GALAC』, NPO 法人放送批評懇談会, 2010.6
- ・「メディアと沖縄イメージ（1） 普天間基地移設報道をめぐって」『GALAC』, NPO 法人放送批評懇談会, 2010.5
- ・「ツーリストの視点で見た『沖縄イメージ』を通じて日本を問う（研究室訪問）」『HQ』, 一橋大学, 2010.3
- ・「沖縄イメージの内と外（特集 ところで、あなたは、沖縄に対して、どんなイメージを持っていますか?）」『momoto モモト』, 編集工房 東洋企画, 2010.1
- ・「年に何度も沖縄に通い 暮らすように楽しむ人たち（特集 沖縄 本をめぐる冒険）」『Coralway』, 日本トランスオーシャン航空, 2009.11.12
- ・「韓国・ソウルでの沖縄映画シンポジウムに参加して」『沖縄タイムス』, 沖縄タイムス社, 2009.7.17
- ・「リゾートと伝統文化2 多面的視点養う好機に 観光をとらえ返すヒント」『沖縄タイムス』, 2009.5.4
- ・「「普通の沖縄」見直した若い世代」『朝日新聞 AD supplement 「2009 新おきなわスタイル」特集』, 朝日新聞社, 2009.3.15
- ・「戦前の沖縄観光：国家主義時代のイメージと知（5） 沖縄と琉球」『琉球新報』, 2007.11.21 朝刊
- ・「戦前の沖縄観光：国家主義時代のイメージと知（4） 島袋源一郎の仕事」『琉球新報』, 2007.11.20 朝刊
- ・「戦前の沖縄観光：国家主義時代のイメージと知（3） 1920年代の南島ブーム」『琉球新報』, 2007.11.13 朝刊

- ・「戦前の沖縄観光：国家主義時代のイメージと知（2）観光客が見た風物」『琉球新報』,2007.11.12 朝刊
- ・「戦前の沖縄観光：国家主義時代のイメージと知（1）沖縄バックツアーの誕生」『琉球新報』,2007.11.10 朝刊
- ・「9月時評・八重山の現在」『琉球新報』,2007.9.24 朝刊
- ・「松島泰勝氏の反論に答える」『琉球新報』,2007.9.3 朝刊
- ・「「ウチナー／ヤマト」をめぐる現実の複雑さと二重性」『環（Vol.30）』,藤原書店,2007.7.30
- ・「5月時評・沖縄の現実と知」『琉球新報』,2007.5.28 朝刊
- ・「1月時評 再考・反復帰と独立」『琉球新報』,2007.1.29 朝刊
- ・「9月時評・想像の沖縄」『琉球新報』,2006.9.26 朝刊
- ・「沖縄イメージの系譜と現在（下）」『沖縄タイムス』,2006.8.31 朝刊
- ・「5月時評・沖縄から遠く離れて」『琉球新報』,2006.5.29 朝刊
- ・「1月時評・ローカル化の暴力」『琉球新報』,2006.1.30 朝刊
- ・「あれから3ヵ月—普天間・辺野古を考えるシンポジウム報告—」『けし風』,新沖縄フォーラム刊行会議,2004.12
- ・「カルチュラル・タイフーン2004 in 沖縄 開催レポート」『インパクション』,インパクト出版会,2004.9
- ・「カルチュラル・タイフーン2004 in 沖縄を終えて」『琉球新報』,2004.8.19 朝刊
- ・「カルチュラル・タイフーン2004 in 沖縄に寄せて（上）」『沖縄タイムス』,2004.7.7 朝刊
- ・「琉球電影烈伝からカルチュラル・タイフーンへ」『EDGE』,APO,2004.7
- ・「白熱する議論—カルチュラル・タイフーンへの招待—」『琉球新報』,2004.5.7 朝刊
- ・「山形国際ドキュメンタリー映画祭2003が残したもの 6・完 ヤマガタでオキナワを考える 国内外を見る 重要な視座」『山形新聞』,2003.11.12 夕刊
- ・「山形国際ドキュメンタリー映画祭『琉球電影列伝』の衝撃」『琉球新報』,2003.10.28 朝刊
- ・「『海—その望まじき未来』その後（連載「いくつもの自画像」3・4）」『沖縄タイムス』,2003.1.13-14 朝刊